

## 都市の 3D デジタルマップの実装に向けた産学官ワーキンググループ（第 2 回） 議事要旨

日時：令和 2 年 12 月 23 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：オンライン開催

### <WGでの主な意見>

- ・東京都の特徴として、物理的な街自体が変わり続けている点があり、こうした中で 3 次元マップの定期的な更新をどう考えるかが重要課題。定期的な更新について、ユースケースやユーザの立場から定義（例えば、年 1 回は最新版であることを保証等）し、これを成立させるための方法について議論を始めてはどうか。
- ・個人情報の該当だけでなく、プライバシー侵害や肖像権がダイレクトに問題になる。3D にするときに、どこまで 3D にできるのかが分からないというのが非常に難しい問題。
- ・国交省都市局の 3D 都市モデルでは、都市計画基本図をベースに最低限 5 年に 1 回の更新するスキームを目指しているが、東京都のような大都市部では、5 年に 1 回の頻度では低い可能性がある。
- ・オープンデータ化の方法では、CC-BY 以外も含めて、いろいろなユースケースを見ながら柔軟にオープンデータのライセンスを組み合わせたいける形(デュアルライセンス)が良いのではないか。
- ・今回の取り組みで、どのレベルのものをいつまでに作るのかを明確にし、検討する側で意識を共有しておく必要がある。例えば 10 年後には情報のリテラシーが全く違う世界が来るので、どのあたりをターゲットにするかで最初のスキームの作り方も変わってくる。
- ・スマート東京全体で考えた場合、3D マップとの連携で考えられるユースケースとして一つは 5G、もう一つはロボット。こうしたユースケースやターゲットに絞り、トライアルしてみる取り組みが有効。
- ・これまでの重畳データは 3D マップが無い前提のものであり、この辺りをプロットしていく際のコストや手間も検討していく必要がある。

### <議論のまとめ>

- ・今後、スマート東京の先行 5 地区の中で大丸有地区、西新宿、豊洲・竹芝のベイエリアを対象にパイロットマップを作成予定。
- ・本日も議論いただいた課題も踏まえつつ、ユースケースからの検証の視点等から、重要とご指摘のあった地下空間についてもテスト的にデータ計測も行いつつ、パイロットマップの作成を通じて検証を行っていく。